



基本理念
 私達は、医療に携わる人間として、情熱と誇りと博愛の心を持ち、意欲ある医療活動を展開していきます。
 独立行政法人 国立病院機構高知病院

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●大串文隆／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385

チーム力の向上を目指して



NHO高知病院 院長
大串 文隆

高知病院は平成12年10月1日に開院し、今年12周年を迎え、10月6日に記念の院内発表会を開催しました。準備期間が短かったにもかかわらず、多職種からレベルの高い多くの演題が集まっており病院の医療の質が上がってきていることを実感しております。

9月に中国四国ブロックの病院による会議があり、人材育成というテーマで意見交換が行われました。中国四国の地域も対象疾患も異なる病院の集まりで個々の病院が抱える問題も様々でしたが、一致していたのは、どのように必要な人材を確保し育成していくかということでした。いろいろな意見はありましたが、基本は良質な医療を行い選ばれる病院になり、職員がやりがいをもてる病院になることが最も重要なことではないかと思います。

これには、事務職から医師にいたる病院職員一人一人が全力で病院の改革に取り組むことが重要ですが、個人が単独で取り組むのではなく協力しながら進めていくことが必要です。つまり、チームとして取り組んでいくことが大きな発展につながると言えます。今年はオリンピック、パラリンピック年でロンドンからの日本選手の活躍の報告に皆さんも感動したのではないのでしょうか。今回のオリンピックは団体でのメダル獲得が多かったように思います。まさに、チーム一丸となって勝ち得た勝利といえるでしょう。

印象に残ったのは背泳の入江選手がメダルを取った後のインタビューで「競泳は8日間において、27人で一つのリレーをしているようなもので最後の男子リレーの自由形の選手がタッチするまで27人の選手のリレーは終わらない」というコメントでした。この時の彼の発言は競泳に参加した27人は一つのチームであることを強調していたように感じます。泳

の競技はリレーを除くと基本的には個人競技といえると思います。コメンテーターによると、前のオリンピックの時には有力選手がいたにも関わらず選手間の団結力が弱く成績も期待に添えなかったそうで、今回の水泳陣の成績はまさにチーム力であったといえるようです。このことは病院にも当てはまるのではないかと思います。病院はそれぞれの職種が資格を有する専門集団で、取り組む仕事内容は多くは独立しているように見えますが、現在は各職種間で連携することが推進され、つながりをより強固なものにすることで診療の質が向上することは間違いありません。

9月1日に、高知県、徳島県を中心に大規模な防災訓練が行われ、当院でも土曜日にもかかわらずたくさんの職員や看護学生がボランティアとして参加し実践形式で実施されました。各職種が分担し効率よい訓練となり、不十分な点も多々ありましたが中央から派遣されていた指導医から高い評価をいただきました。高知病院の「チーム力」を発揮できたのではないかと思います。「チーム力」を上げていくためには、各職種間のつながりが大切なことは当然ですが、それにはお互いの意見を尊重できる職員関係の構築が重要で個々の職員の意識の変革も必要な点と考えます。

国立病院機構も独法から離れて新しい組織に変わっていくようですが、このような状況においては職員一人一人が高知病院のチームの一員としての自覚を持つことが要求されると思います。職員の皆さん、「チーム力」を向上させ高知病院が新しい組織においても存在感を発揮できるすばらしい病院になるよう頑張っていきましょう。

市民公開講座

こんなときは病院へ行きましょう

■ 消化器科 ■

診療部長
井上 修志

健康とは、心身がすこやかな状態であることと定義されているようですが、健康を維持することはなかなか大変であり、当然年齢を重ねるたびに様々な疾病が忍び寄る機会が増えてくると考えられます。できれば自分自身で自分の健康を守り、維持していく事にこしたことはないのですが、一般の方には医学的なことに関しては知識が不足しがちで、様々な症状が出たとき不安になったり、逆に自己判断で大した事は無いとそのままだしたりすることが有ると考えられます。

このような症状が出現した時はこんな病気が考えられるとか、最近は病院のコンビニ化の問題も叫ばれ

報道されている中、我慢される方もいると思われますが、逆にこのような症状のときは我慢せず、手遅れになる前にぜひ病院に来て頂きたいとか、このような症状なら慌てなくても良いとかの内容のほか、更に病気の予防法、また予防医学的にはどの様に健診を受け、利用すれば良いかなどについて講演を行いました。

次回も出来るだけ多数の方に出席していただけるように、工夫を凝らしたいと考えるとともに、心身の「身」のみならず「心」に関しての講演の機会も作れたらよいとも思いました。



消化器科 井上修志

消化管の名称とその位置



癌の症状

早期癌

初期では特定の症状は無いことが多い。早期で見つかる場合は癌そのものの症状でなく、他の症状で検査を受け偶然見つかる場合が多い。

進行癌

様々な症状が出現
疲れやすい、痛い、腹が張る、食欲不振、食べたものを吐く、嗜好が変化する、胸やけがする、痩せてくる、貧血症状が出る、お腹にしこりを触れる、黄疸、発熱、その他。



種類によって進行が早いものとゆっくり進行するものがある

診断法

1. 血液・尿検査
2. X線検査
3. 内視鏡検査
4. 超音波検査
体外式超音波検査、超音波内視鏡
5. CT検査
6. MRI検査
7. FDG-PET
8. カプセル内視鏡、その他

癌も含め癌以外にも生命を危うくする
様々な病気ありこんな時にはぜひ病院に

症状	考えられる疾患
胸焼け、呑酸、胸痛など 食べたものが詰まる、 その他	胃食道逆流症 食道癌、アカラシア 異物、その他
腹痛が続く、腹が張る、 生魚を食べて暫くして腹痛 が出現した。吐血、タール便、 食欲不振、食べたものを吐く、 嗜好が変化する、痩せてくる、 貧血症状が出る、 お腹にしこりを触れる、 強い痛みが突然出現する、その他	癌、潰瘍、胃炎 機能性ディスペプシア 胃アニサキス症 消化管感染症、穿孔、 その他

こんな場合には小腸や大腸の病気
が考えられる

症状

腹痛が続く、腹が張る、食欲不振、食べたものを吐く、痩せてくる、便秘や下痢が続く、貧血症状が出る、腹部の膨隆、お腹にしこりを触れる、発熱が続く、腹痛と伴に熱が出る、強い痛みが突然出現する、血便が出る、その他

疾患

癌、虫垂炎、憩室炎、潰瘍、腸閉塞、腸捻転、腸重積、潰瘍性大腸炎、クローン病等の炎症性腸疾患、寄生虫、異物、感染症、消化管穿孔、その他

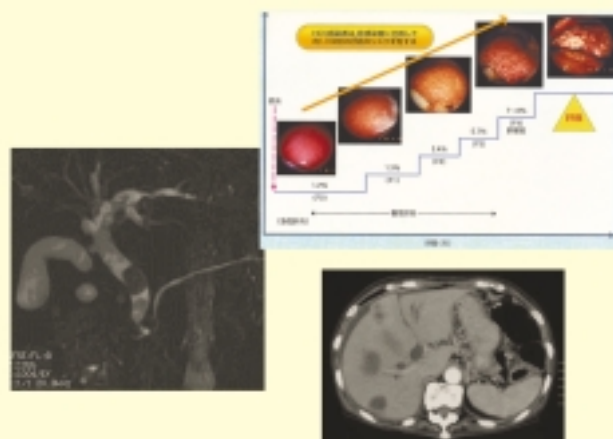
肝・胆道・膵の病気が考えられる

症状

全身倦怠感が続く、腹痛が続く、
腹が張る、腹水、浮腫、食欲不振、
痩せてくる、貧血症状が出る、
黄疸、発熱、お腹にしこりを触れる、
その他

考えられる疾患

癌、肝炎（ウイルス性肝炎、その他の肝炎）、
肝硬変、結石症（胆石症、総胆管・肝内結石）、
感染による炎症（胆嚢炎、胆管炎など）、
膵炎（アルコール性、結石、原因不明）、その他



どうすれば癌や重い病気に
ならずにすむの？

确实な予防法は残念ながらまだない

遺伝因子、ウイルス感染、アルコール、
タバコ等の嗜好品、食べ物など原因となるものが
徐々に解明されつつある

胃癌・大腸癌は早期発見で
90%以上完治する。

何故なら

早期で発見すればがんが転移する前に治療ができる。

早期発見の一番有効な方法は現在のところは定期的に
検診あるいは検査を受けること。
またやりっぱなしでなく検診でチェックされたら必ず
精査をすること。

早期にがんや重篤な病気を
見つける為には

症状がなくても定期的に検査を受けること。

検診、人間ドック、その他

定期的に病院での検査を受ける

過度にならないように常に自分の健康状態に
気を付けて、何か変化があれば病院を受診する
ことが大切なのではと思われます。

「防災の日」広域医療搬送訓練に参加しました

給与係 三崎 一輝（日本DMAT隊員）



「防災の日」は、1923年（大正12年）9月1日に発生した関東大震災にちなみ、1960年（昭和35年）に制定されたものです。「政府、地方公共団体等関係諸機関をはじめ、広く国民が台風高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、これに対処する心構えを準備する」こととされ、毎年9月1日を中心として「防災思想の普及、功労者の表彰、防災訓練等これにふさわしい行事」が実施されています。

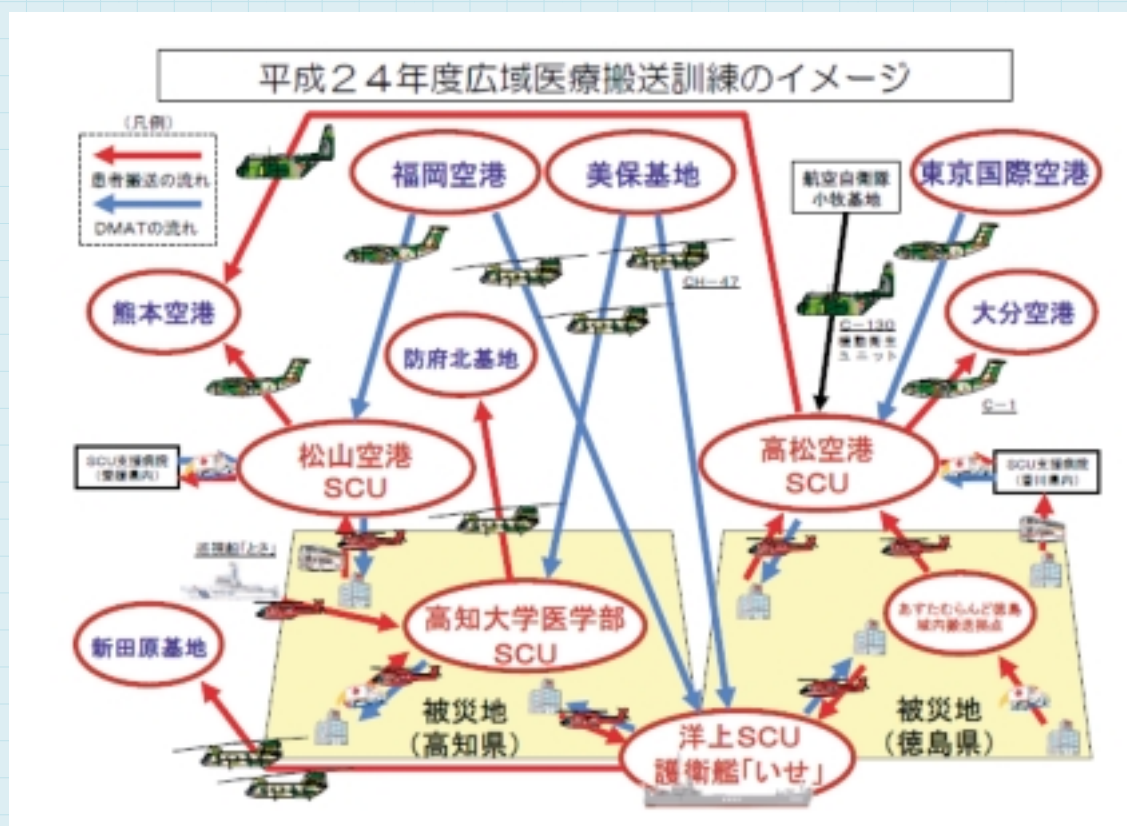
本年9月1日「防災の日」には、南海地震を想定した政府主催の総合防災訓練が実施されました。高知県及び徳島県を被災地想定とし、中国・四国・九州で搬送拠点を立ち上げ、実際に搬送するという大規模な広域医療搬送の実働訓練です。

高知県内では、午前10時00分に南海トラフを震源とする巨大地震（震度7）が発生、同10時15分に津

波警報発令、同10時40分に高知市沿岸部へ津波が到達するという想定の下に訓練が行われました。

当院は、高知県の災害拠点病院として参加し、午前中は高知市医療対策本部との通信訓練、午後からは地震により被災した救急患者さんに適切な対応を行うための院内トリアージ訓練、病院支援DMATとの連携、高知大学SCU（広域搬送拠点臨時医療施設）への患者搬送を行いました。

まず、10時00分に地震発生がアナウンスされると、災害対策本部を立ち上げ、各部署から被災状況の報告を受けるとともに記録・集計し本部長（院長）への報告を行いました。また、集計した被災状況について、高知市医療対策本部との通信連絡やこうち医療ネットへの入力等を複数名の職員が取り扱えるよう実地訓練を行いました。



この間に、津波警報発令がアナウンスされ、外来患者さんの避難誘導訓練を行いました。なお、本年3月31日に内閣府が公表した津波高のシミュレーションでは、当院には浸水被害はないとされています。

午後からは、1階外来ホールでトリアージ訓練等を行いました。日本DMAT事務局から2名のインストラクターが派遣され、助言をいただくとともに、「神の声」役を担っていただく等大変お世話になりました。

災害により被災し、救急治療を受ける必要がある患者さんが当院に多数運ばれることを想定し、外来ホールの待合椅子等を全て片づけ、初期トリアージエリア、重症・中等症・軽症の各治療エリア、仮設の災害対策本部等を設けました。

看護学生が模擬患者役を務め、13時30分頃から模擬患者41名が家族と共に次々と外来ホールにつめかけると、一次トリアージを行う職員、各エリアへ搬送する職員、各エリアで治療する職員、情報伝達を行う職員と役割分担し、日本DMAT隊員（当院職員）の指導の下、本番さながらの訓練が行われました。

救急患者に扮した看護学生の迫真の演技は圧巻で

した。「早く治療してくれ」と泣き叫ぶ声に動揺する場面があり、その他にも薬品や器材が不足する場面、正確な情報が災害対策本部に伝わらない場面等、様々な反省点が明らかになりました。

また、14時過ぎには岡山県から支援DMATが到着。災害対策本部から被災状況等の報告を行い、高知大学SCUへの患者搬送を依頼しました。同時に搬送のための救急車派遣を高知市医療対策本部へ行いましたが、行政防災無線が不通となり患者詳細情報がFAX送信できない状況であったため連絡に時間を要し、最終的には衛星携帯電話を使用して通話による連絡となりました。

15時過ぎに高知市消防局より救急車が到着。広域医療搬送カルテ等を支援DMATに引き継ぎ、高知大学SCUへの搬送を行いました。

今回の訓練には、職員、看護学生合わせて174名が参加しました。参加した職員からは、反省点の解消や防災マニュアルの改訂に繋がたいという意見や、将来起こりうる南海地震やその他の災害に備えて定期的に訓練を行うべきとの意見が多数聞かれました。災害拠点病院として万全を期すためにも、定期的な訓練の実施に努めていきたいと思います。



院内発表会を開催しました



庶務班長 伊藤 真之

平成24年10月6日(土)に院内発表会を開催しました。第1回は平成22年10月1日に当院の開院10周年を記念しての発表会を開催して以来、開院記念日の直近の土曜日に開催しているものです。

第3回となる今年は準備期間が短かったのですが、臨床研究部長の声かけにより16題の演題が集まりました。

当日は発表者、聴講者合わせて66名が参加し、活発な発表会となりました。発表5分、討論2分の予定で発表を行いました。持ち時間が十分ではない中、会場からの質疑応答も積極的に行われ、有意義な発表会となりました。

今後もこのような取り組みを通じて、病院の活性化に繋げていきたいと考えています。

NHO高知病院 開院記念 第3回院内発表プログラム

9:45-9:50 開会にあたって	病院長 大串 文隆
9:50-9:55 『NHOおよび当院における臨床研究活動の現状』	臨床研究部長 篠原 勉
9:55-10:23 セッション1	座長 副看護部長 土居 明美
①『南海地震に備えて～重症心身障害病棟の災害訓練を実施して「K Y Tによる検討」～』	
	看護部 多川 一美
②『自然災害から学んだ対応』	放射線科 荒木 孝之
③『南海地震に備えた高知県の災害救急医薬品の備蓄・管理について』	薬剤科 宮井明日香
④『ICTと医療安全管理室との連携による針刺し事故防止への取り組み』	感染管理室 原 昭恵
10:23-10:51 セッション2	座長 呼吸器センター長 畠山 暢生
①『当院結核病棟における入院結核透析患者および結核死亡患者に関する臨床的検討』	
	呼吸器科 畠山 暢生
②『当院における胃石症例の検討』	消化器科 板垣 達三
③『療養病床の要介護高齢者における歯磨きの自立度変化に関連する因子』	
	リハビリテーション科 野々 篤志
④『食形態の基準・名称の統一に向けて』	リハビリテーション科 野々 篤志
10:51-11:04 - 休憩 -	
11:04-11:32 セッション3	座長 外科医長 福山 充俊
①『後縦隔腫瘍像を呈した胸椎原発巨細胞腫の一例』	呼吸器外科 森下 敦司
②『他科紹介の悪性腫瘍における尿路ドレナージの意義』	泌尿器科 笠原高太郎
③『吸収性局所止血剤が術中自己血回収術に与える影響の検討』	ME機器管理室 林 博英
④『当院のめまい患者における聴力検査』	臨床検査科 田中 麻衣
11:32-12:00 セッション4	座長 臨床研究部長 篠原 勉
①『2010～2012年度 重症心身障害医療の臨床研究報告』	小児科 武市 知己
②『肺癌化学療法における臨床試験の展開と課題』	呼吸器科 香西 博之
③『当院の64列マルチスライスCTに関して』	放射線科 宮原 克孝
④『ピアサポートを目的としたがんサロン設立』	地域医療連携室 長浦 英世



平成24年度 専門看護コース 公開講座開催中

副看護部長 土居 明美



現在、開催されている専門看護コースの公開講座について紹介します。看護部が企画する教育プログラムには専門看護コースがあり、受講内容と受講対象で2つのコースに分かれています。一つは、多くの看護師を対象に当院の政策医療分野の看護のレベルアップを目指す、重症心身障害児（者）看護・呼吸器看護と災害拠点病院の役割を果たすための救急災害看護のコースです。もう一つは、受講者を専門分野での実践、経験年数で決定する、当院の認定看護師による感染管理、緩和ケア、がん性疼痛看護、医療安全管理係長による医療安全のコースがあります。

当院の認定看護師による専門看護コースの目的は、「看護の質を向上させるためにコアとなって根拠に基づいた看護が実践できるとともに部署の看護におけるレベルアップに貢献できる人材を育成する」です。平成23年度から感染管理、緩和ケア、がん性疼痛看護、平成24年度から、医療安全について受講者

を限定して実施しています。今年度から、地域の看護師を対象とする公開講座としました。その結果、各コースで3～7名が参加されています。

各研修は4回～6回／6か月で、18時から1時間30分の講義や演習を企画しています。講師と院内受講者は、他施設の受講者から刺激を受けながら意欲的に取り組んでいます。

このような公開講座により、①専門性の高い医療を提供し「地域に信頼される病院」を目指す。②看護師間の情報交換の場やつながりにより、看護師の専門性を高める。③専門性の高い医療を提供し「地域に信頼される病院」を目指している当院の実態を見ていただくことによるコマーシャル効果を期待しています。

次回からのほげい船では、公開講座のそれぞれの講師からの紹介を予定しています。



お知らせ

リニアック更新工事に伴う治療予約の 一時中止について

放射線科

この度、当院のリニアック装置（高圧X線照射装置）更新のため、平成24年10月1日～平成25年6月頃（予定）までの間、放射線治療予約を一時お受けすることが出来なくなります。

関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけすることとなり、誠に申し訳ありませんが御理解を賜りますようお願いいたします。

なお、リニアック装置の更新が完了次第、治療開始のご案内をいたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。



医療5S活動について



主任臨床工学技士 林 博英

当院では毎年、医療安全管理室の主催により「医療5S活動」が行われます。今年は4回目を迎えました。

5S活動の5Sとは、「整理」・「整頓」・「清掃」・「清潔」・「しつけ」の5つの頭文字が「S」となっていることから5Sと呼ばれています。5Sに基づいた業務管理を5S活動と呼びます。

5S活動による効果は、職場環境の美化、従業員のモラル向上などが挙げられ、間接的な効果として業務の効率化、不具合の未然防止、安全性向上などが挙げられます。当院では、「病院業務のリスク低減と作業効率向上」を目的に、つまり、患者さまの安全確保、医療サービス向上のために、医療5S活動として取り組んでいます。

今年の発表はどうしよう・・・ME機器管理室は過去3回のうち2回も優秀賞を受賞している医療5S活動の名門(?)です。しかし今年は効果的な活動が行えておらず、また、発表できるような内容に仕上がっていませんでした。

締め切りが迫るある日、妻の実家から荷物が届きました。梱包を開けると、現在流行っている高压洗浄機でした。帰省の度に高知のうまい酒を手土産にする私に、義父が買ってくれたものでした。高压洗浄機を手にし、今年の具体的目標が決まりました。

1階の中庭に当院のシンボルマーク「クジラくん(仮称)」が描かれていることをご存知ですか？統合開院後12年経ち、積もりに積もったチリで姿を隠してしまっていますが、その下にはクジラくんがいるんです。今年の目標は、クジラくんの救出です。

高压洗浄機を手し、頑固な汚れに闘いを挑みます。徐々に汚れが取れ、元気に潮を噴いているクジラくんの姿が現れてくると、うれしさから暑さも忘れ、作業に没頭してしまいました。

作業前後の違いは写真をご覧ください。開院時の美しさを思い出します。外来待合ホールや放射線科待合ホールが明るくなったように感じます。

今回はME機器室部門が優秀賞を受賞しましたが、

4回目となると他の部門の方々もレベルが上がっており、5S活動への取り組みにも気合が入っています。今後も各部門が競い合い、この活動を通してさらに患者さまへの安全確保、医療サービス向上につながっていくことと思います。



医療安全管理室だより

—医療安全管理室の活動—



医療安全管理係長 森山 万智

看護職員がヒヤリとしたり、ハッとしたりする体験として報告される事象の中には、与薬・注射の場面が多いといわれています。これは、看護職員が患者さんに直接かわり医療を提供する場面が多いがゆえに、おのずと体験することも多くなるからです。当院の医療安全管理室会では注射事故防止グループのメンバーが主となり、この与薬・注射の事故を防止するために、潜んでいるリスクを回避し、安全を推進するための活動に取り組んでいます。今回は、その活動の1つである、職員への広報として作成、掲示しました0レベル報告（気づき報告）から見出した具体的な防止策を活かしたポスターをご紹介します。

L



注射実施におけるインシデント情報

横浜国立大学社会科学研究科
注射実践研究会グループ
2012年7月号

注射実践研究会グループでは、毎月の注射実施におけるインシデント内容の中で、注意して欲しいことをピックアップしてお知らせします。

8月の報告件数：7件

このうち、医薬品の確認不足によるものが7件ありました。

内容を見ると、治療者の思いこみの方が優先され、患者の氏名をまったく見ていない等、以下のことが確認できていませんでした。

- ★患者の 氏名（氏名とバーコード（患者識別方法）のフルネーム
- ★薬品の 量（mg）

例：ソル・バルコート → 125mg と 300mg

デキサート → 1.53mg と 0.3mg



- ★薬品の 容量（ml）

例：生食 → 20ml と 100ml



- ★薬品の 薬剤（バイアル液・アンプル液）

上記の薬品から使用する場合には、1人で確認したことも原因にあげられます。

院内で実際に起こっていることです。

みなさん、注意しましょう！

— 認識しずらい危険性 —

治療時等は、人間の心地内や表情に基づき「誤判断、誤操作、誤作動」を生じ、事故を未然に防ぎずるやに感じます。

「何もしない場合」と「まへ、」治療し呼ぶらる場合」を区別、誤り治療を防ぎます。以下に確認をとりおたてします。

今月の徹底内容

「伝票や指示簿の 声だし・指差し確認！！」

mg・ml・本数まで声を出しましょう



点滴・注射に関する強化月間

看護実践安全向上委員会 注射事故防止グループ
1-Q24 9月版

- 点滴中、患者を車いすで移動する時は、**専用スタンド**を必ず使用します！

なぜなら・・・点滴台を押しながら車いすを使用すると
バランスを崩して転倒の恐れがあります。

危険！



エレベーターの
段差
防止剤の
設置

点滴台を患者が持っている

**正しい
方法**



正しい専用スタンドを使う
- 輸液ポンプ・シリンジポンプのプラグは、
原則として**赤コンセント**を使用します！

なぜなら・・・白コンセントは、停電時には、
電気の供給が止まります。

赤コンセントはコンセントを
使用している場合は
「停電禁止！」など
表示がわかるように表示し
て置くことが大切です。
- 使用した物品は**正しく分別**します！

なぜなら・・・

 - ★段ボール容器に鋭利な物が入ると突き出て危険！
 - ★余分な物が入るとお金のムダ！

段ボール容器：490円 プラスチック容器：860円

—手作りリーフレットの紹介—

地域医療連携室スタッフが、慣れないPCを駆使して作成した手作り感あふれるリーフレットです。その中から、一部ご紹介いたします。

国立病院機構高知病院と連携している医療機関です

**ふなひまっす
クリニック**

院長 船井守典生

<診療上の特色>

診療科：小児科・一般内科、予防医療、乳児健診



医療診療時間

午前 9:00～12:30
午後 14:00～18:00

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	○
午後	○	○	○	○	○	○	○

※ 1歳、2歳、3歳の子供
予約制
高知市船井町3-10
高知大学と連携した市民会館1202号
電話予約 099-827-2271



私達は、医師に携わる人間として情熱と誇りと情愛の心を持ち
最良ある医療活動を展開しています

088-828-4465

地域医療連携室までご一報下さい。 平日 8:30～18:00まで対応いたします。

職員の異動

看護師	堅田 恵理	8月31日付
看護師	古味 環	8月31日付
薬剤科長	久保 英治	9月30日付
看護師	横川 史江	9月30日付
呼吸器科医師	飛梅 亮	10月14日付

感染管理室だより

感染防止対策地域連携合同カンファレンスを
開催しました

感染管理認定看護師 原 昭恵

感染管理認定看護師 原 昭恵



平成24年度の診療報酬改定により、感染防止対策に関する加算が一部改定されました。感染防止対策が医療安全対策とは別に評価（加算）されることとなり、各医療機関における感染防止対策の充実、推進を図ることが目的とされています。その中で、加算1の医療機関は感染防止対策に関するカンファレンス（検討会）を開催すること、また、加算2の医療機関はこれらのカンファレンスへ参加することが必要とされています。当院は加算1の施設となっており、現在連携している4施設との合同カンファレンスを平成24年7月27日、9月27日の2回開催いたしました。カンファレンスは院内外から感染対策を担当する医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師（各回20名）が参加し、「効果的な院内感染対策チーム（ICT）活動について」「院内ラウンドについて」というテーマで実施しました。当院からは活動内容などの現状を発表し、その後のディスカッションでは各施設の具体的な問題などについて活発な意見が交わされました。カンファレンス後のアンケートでは「他職種のそれぞれのICT活動が大変参考になった。」「色々気づかされることが多くあった。」「これをもとに検討を重ねたい。」といった意見をいただきました。今後は、感染対策に関する地域のネットワークや病院間の連携をとおして、地域全体での感染対策向上につながるよう取り組んでいきたいと考えています。

高知医療マネジメント学会に 参加して

看護師 多川 一美



平成24年8月26日に行われた高知医療マネジメント学会に参加しました。医療安全や感染制御、栄養、口腔ケア、救急・災害等13セクションの発表がありました。私は救急・災害のセクションで「南海地震に備えて～重症心身障害病棟の災害訓練を実施してKYTによる検討～」について発表しました。

重症心身障害病棟の入院患者さんは、変形や拘縮、環境変化による興奮やパニックを起こしやすく、人工呼吸器を装着している方もいます。搬送時はカニュレの抜去や自傷・他傷等様々な危険の発生が予測されます。災害時にスタッフは、冷静に判断を行い、患者さんの状態を観察して迅速に行動する必要があります。そのため、患者さん個々に合わせた搬送方法、安全に搬送するための危険防止策等を想定し、災害訓練に取り入れることや各職員の役割が一目でわかるアクションカードを作成して災害に備える必要があります。また、災害を考えて不安になるのは、患者さんだけでなくスタッフも同じであり、物品や訓練だけでなく、スタッフの精神面の備えも大切だと感じました。

特別講演では、筑波大学大学院の鈴木瞬先生の「これからの『健康』の話をしよう～医療者のワーク・エンゲージメントとSOC」がありました。「私たちは、健康の正体がわからないのに、健康不安におびえており、健康という問題は一生をかけて答えを出していかなければならない問題である。」と言われたことが印象に残りました。私たちは健康であるのに健康になろうとして、サプリメントをとったりしており、健康不安におびえていたということに気が付きました。

今回学会に参加することで他施設の災害の取り組みを知ることができ、患者さん、スタッフにとって必要な災害の備えはどんなものであるか、課題が明確になりました。これからも、個々の患者さんに合った災害の備えへの取り組みを行っていききたいと思います。



実施したKYTの内容

看護学校だより



オープンスクール

3年生 川村 友美、斉藤 七彩、溝渕 千真

7月22日と8月19日にオープンスクールが開催され、高校生や社会人など、外部から多くの方々が参加して下さいました。在校生も参加者の方々に看護への興味・関心をもってもらおうと、模擬授業や様々な体験学習を通して交流を深めました。

午前中は教員による学校概要と在校生による学校生活についての説明が行われました。パワーポイントで学校生活の写真を掲載し、3年生のこれまでの体験談を含めた学校紹介は、参加者の方々にも興味をもって頂けたと思います。

その後の足浴体験では、参加者同士がペアになって看護師・患者役にそれぞれが分かれて実際に援助を行いました。看護師役の参加者は、最初は戸惑いながらも患者を気遣い安楽に配慮した援助が行えていました。湯にラベンダーなどのアロマを入れることでリラクゼーション効果が更に高まり、睡眠やリラクゼーションを促す足浴の効果をより実感して頂けたと思います。



昼食時には参加者と在校生がグループごとに分かれて食事をし、午前中パワーポイントで紹介した行事や臨地実習といった学校生活などの質問がありました。在校生は参加者の質問に答えながら共に楽しいひと時を過ごしました。

午後には実際の看護技術を経験してもらおうと、血圧測定、沐浴、手洗い、食事介助などが行われました。看護に用いる物品を実際に使用することは普段はない体験のため、参加者は興味関心をもち真剣に取り組まれていました。在校生も原理原則や自身の実習での経験を踏まえ、手順や注意点などを説明することで、自分の技術を振り返る機会にもなりました。何よりも参加者に楽しんでもらうことができたことが嬉しかったです。

参加者との話の中で看護を志したきっかけや自分はどんな看護師を目指しているのかを聞くことができ、私たち自身も初心に返ることができました。1日を通して、少しではありますが当校の雰囲気や看護に対しても色々なことを感じて頂けたと思います。共に看護を学んでいける日を楽しみにしています。





災害訓練

3年生 公文 亜弥佳

9月1日、巨大地震を想定しての災害訓練が高知病院で行われました。私たち看護学生は被災者役として災害訓練に参加しました。

現場はたくさんの被災者で混雑しており、混乱のさなかにありました。私は右下腿開放骨折で病院までは自力で歩行してきましたが、到着後歩行できなくなってしまった被災者としての参加でした。看護師や医師が中心となって今すぐ処置が必要かどうかを冷静に判断し、治療の優先順位を示すトリアージタグが付けられました。私は最初、処置の優先度が低い緑と判断されましたが、緑のエリアにいる医師や看護師の判断で優先度の高い赤と判断されました。看護師が私に痛みの程度や被災時の状況を確認してくれ、医師は足の診察を行いながら「歩けるかどうか」ということの意見交換をしていました。

このことから、医師や看護師、その他の医療従事者が連携して正しい判断を下していった

と感じました。また正しい判断を下せず優先順位を誤ってしまうと命に関わるため、混乱した状況の中でも冷静かつ正しい判断が求められるということを実感しました。

被災者のなかには死亡、又は生命徴候がなく救命の見込みがないことを意味する黒のトリアージタグを付けられた方もおり、その身内の方に対して肩を抱き言葉をかける看護師の姿も見受けられました。混乱している状況の中でも被災者の心のケアも決して忘れてはならないと感じました。

災害はいつ起こるかわかりません。南海地震も近い将来起こると言われています。医療従事者として一人でも多くの被災者を助けられるように、今回の災害訓練で得た学びを生かしていきたいと思っています。



外来診療担当医表

(平成24年11月1日現在)

■受付時間 8:30~11:00 整形外科・火曜日は8:30~10:00です。

■休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日~1月3日



独立行政法人
国立病院機構
高知病院

〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号
TEL(088)844-3111 FAX(088)843-6385
http://www.hosp.go.jp/~kochihp

国立病院機構の
シンボルマーク



高知病院の
シンボルマーク

診療科	区分・診察室番号	月	火	水	木	金
内科	午前 1 診	⑫ 岡崎	篠原・岡野	篠原・井上	町田・藤野	畠山・香西
	特別外来	⑪ 松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午後 専門外来					
神経内科		⑰ 不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼吸器科 アレルギー科	午前 1 診	⑧ 篠原 勉	大串 文隆 (リウマチ科も診察)	畠山 暢生	大串 文隆	岡野 義夫
	2 診	⑥		町田 久典		
	午後 専門外来				禁煙外来 14:00~15:30(予約制)	
消化器科	午前	⑨ 井上・板垣	藤野 泰輝	板垣 達三	井上 修志	藤野 泰輝
循環器科	午前	⑦ 山崎 隆志	西村 直己		山崎 隆志	
	午後 専門外来				ペースメーカー(第1木曜)	
リウマチ科		⑩ 松森 昭憲 (糖尿病も診察)	大串 文隆	大串 文隆		松森 昭憲 (糖尿病も診察)
小児科	午前 1 診	① 小倉 英郎	小倉 英郎	武市 知己	小倉 英郎	大石 尚文
	2 診	② 大石 尚文	井上 和男	大石 尚文	大石 尚文	高橋 芳夫
	3 診	③ 武市 知己			井上 和男	小倉由紀子
	午後 専門外来	神経・発達障害	アレルギー 特殊予防接種	乳児検診	アレルギー・化学物質過敏症 NICUフォローアップ	神経・発達障害 乳児健診
	予防接種	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)
外科	午前 1 診	⑤ 大塚 敏広	福山 充俊	山崎 誠司	福山 充俊	井川 浩一
	2 診	⑥ (乳ガン検診も実施)	(乳ガン検診も実施)	(乳ガン検診も実施)	(乳ガン検診も実施)	(乳ガン検診も実施)
	午後 専門外来		福山(乳腺外来) 大塚(胃ろう・ヘルニア外来)		日野・福山 乳腺外来	
整形外科	午前 1 診	① 篠原 一仁	兼松 次郎	小林 亨	篠原 一仁	林 二三男
	2 診	②			(田村 竜也)	
脳神経外科	午前	⑧ 非常勤		非常勤		非常勤 10:00~
	午後 専門外来					
呼吸器外科	午前	⑦	日野 弘之		日野 弘之	
小児外科	午前	⑤				
皮膚科	午前	⑬ 三好 研	三好 研	三好 研	三好 研	三好 研
泌尿器科	午前	⑨ 渡邊 裕修	笠原高太郎	渡邊(奇数週) 久野(偶数週)	笠原高太郎	渡邊 裕修
産科	午前	瀋 原田 裕子	福家 義雄	福家 義雄	小林 文子	
	午後					
婦人科	午前	濱 福家 義雄		小林 文子		原田 裕子
眼科	午前	澹 戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳鼻咽喉科	午前	⑯ 近藤・中野	近藤・中野	近藤・中野	近藤・中野	近藤・中野
	午後 専門外来		14:00~(予約制) 嚥下・睡眠時無呼吸外来			
リハビリテーション科						
放射線科		小松 幸久	塩田 博文	松岡 葵	塩田 博文	小松 幸久

※ 内科の1診は、月曜日から金曜日まで全て、医師1名担当の交代制となっています。